



情報誌

FAR

53 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

新しい時代への挑戦

副会長 速水昭雄



明けましてお目出とうございます。

昨年世界的に見ても各地で地震による災害や台風による大洪水事故など大きな災害が発生した年でありました。最近の気象異常の原因として地球温暖化の影響と捉えている学者もおりますが、これが原因の一つであれば、このような災害はこれからも増えていくのではないかと危惧致します。自分達の住む環境は平和で安全な場所であると思込んでおりますが、これからは私達の地域でも何時発生するか判らない災害への備えを今一度真剣に検討する時期ではないかと考えます。災害の被害は予測出来ない結果になることが現実であります。しかし個人的

には最低限の災害用非常備品を準備しておくべきかと思ひます。今年は歴史的に見ても 30 年間の平和な平成の時代から新しい天皇の即位と共に新元号が 5 月からスタート致します。これからの新たな時代の変化も予測されますし、これを機会に私達個人の生き方も考えて見る必要もあります。

身近な医療にもその変化の兆しがあります。昨年ノーベル医学賞を取られた本庶さんの研究成果となった免疫療法は、これから本格的に進歩すると共に遺伝子検査による治療の個別化が計られることになるのではと想像されます。この傾向は今までの医療への大きな変換の時代となることが推測されます。時代の変化の中でも最近の IT の進化がもたらす社会構造の変化は目覚ましく、今までの概念が大きく変化しています。

身近なところでも医療への AI の活用が多方面で検討されております。今まで人間の判断と時間をかけた業務が極めて短時間に効率よくできることになりつつあります。また日常の業務でも IT 化が進めば、人と時間の効率化が大幅に図られることになります。これからの日本は益々高齢化と人口減少が進み、企業にとって人材の確保が困難になれば業務の合理化と効率化には必ず IT 化が必要なこととなります。特に医療の現場での IT 化は最優先で導入されることとなります。チーム医療の現場ではスタッフの専門性を超えた業務の拡大と支援が求められます。その時代には今までの独占業務の権限を超えた協業が求められ、そのための法の整備と教育訓練が必要になります。厚生労働省でもこれからは積極的に医療業務拡大を推進していくようになると思われます。今、働き方改革が色々な現場で進められていますが、その一つとしてタスクシフティングによる業務改革があります。医療の現場でも医師業務の一部を代行できるようにしていくことが検討されています。

このような社会変化の中で高齢化を迎える私達は、

内 容

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. ごあいさつ | 副会長 速水昭雄 |
| 2. 第 75 回総会学術大会へのお誘い | 大会長 石田隆行 |
| 3. 2019 FAR 会懇親のタベ | 代表幹事 橋本廣信 |
| 4. 2018 秋の FAR 会報告 | 代表幹事 梁川 功 |
| 5. 新入会者紹介 | |
| 6. 会員動向 | |
| 7. 会からのお知らせ | |
| 8. 秋季学術大会・実行委員会報告 | 実行委員長 坂本 博 |
| 9. JSRT 情報 | |
| 10. 寄稿「古墳巡り回想録」-その 2- | 川越市 森 克彦 |
| 11. 親睦会報告 | |
| | 「平成最後の年忘れ紅葉の宴」 大阪市 草山泰子 |
| 12. 編集の小窓 | |

長寿社会での生き方として健康寿命を少しでも延ばせるような努力をできればと思います。世の中ではサプリメントのコマーシャルが目につきますが、出来れば健康維持に適した体力作りと生活面での工夫を考えて行きたいと思います。

~~~~~  
《第 75 回総会学術大会へのお誘い》

FAR 会の皆様へのご挨拶

大阪大学大学院医学系研究科 石田隆行



新年、おめでとうございます。本年 4 月 11 日（木）から 14 日（日）の 4 日間、パシフィコ横浜で第 75 回日本放射線技術学会総会学術大会を開催いたします。今年の大会テーマは、「革新的な放射線医学を－患者に寄り添って－」、英語では「Innovative Radiology close to the Patients」です。

この大会テーマには、革新的な放射線医学の提供を目指している研究者・技術者とそれを高度な知識と技術で使いこなして医療を行う医療人、つまり放射線医学に関わる全ての人が、患者に寄り添う気持ちを持つことが必要であるという思いが込められています。放射線医学・技術を発展させ実践することによって社会に貢献している私たちにとって、まさに座右の銘ともいえるテーマになっています。

今回の合同特別講演は、今注目されている人工知能（AI）研究の第一人者である松尾 豊先生にご講演頂きます。AI について造詣が深く広い視野をお持ちの先生ですので、医療での AI 応用の可能性やその問題点などについて聞かせて頂けると思います。合同シンポジウムは、「Value-based Imaging：AI 時代を見据えて」、「人工知能（AI）を用いた革新的な放射線医学」、「腫瘍の「顔」をとらえる－生物学的不均質性に応じた放射線治療の幕開け－」というテーマを取り上げて、まさに近未来の革新的な放射線医療に関して討論する予定です。さらに JSRT のシンポジウムは、「人工知能と放射線画像技術」、「画像検査における心構え－悪性腫瘍の適切な診断と治療のために－」、「医療安全体制の構築～モダリティーの殻を破る～」で、多くの皆様に是非参加して頂きたい 3 テーマとなっています。どうぞご期待下さい。

学術大会は、研究成果発表やシンポジウムなどの学術活動の場ですが、同時に FAR 会の先生方と交流しお話できる貴重な場でもあります。参加した皆様にとって有意義な大会となるよう実行委員が丸となって準備を進めておりますので、よろしくお願い致します。FAR 会の先生方と横浜でお会いできることをとても楽しみにしております。



実行委員：上段左から、川下郁生（広島国際大学）、飯田紀世一（東京慈恵会医科大学附属病院）、  
對間博之（茨城県立医療大学）、松澤博明（大阪大学医学部附属病院）  
下段左から 大会長 石田隆行（大阪大学）、実行委員長 赤澤博之（京都医療科学大学）

## 《2019 年 FAR 会懇親の夕べ》

### 隠れ家でイタリアンを堪能しながら懇親を

代表幹事 橋本廣信

今回の 2019 年第 75 回 JSRT 総会学術大会時の FAR 会懇親の夕べは、JR 桜木町駅から 3 分程度の横浜市福祉健康総合センター裏の会場を準備させて頂きました。店は南イタリア風をイメージした内装で、駅近にも関わらずとても静かで落ち着いた雰囲気、一軒家風隠れ家のような静かな環境で会員の方々の懇親を深めて、ゆったりとした時間とワイン及びイタリア料理を楽しみながら過ごして頂く様に企画をさせて頂きました。食材にこだわり、三浦半島からの濃厚地野菜や淡路島からのフレッシュ手打ち生パスタ等を毎朝直送で取り寄せているそうです。

店長のお薦めのピッツァは石窯焼き自家製でもちもち感もあり、下見で味わったパスタもとても美味しかったです。開催当日のメイン料理は、オマール海老、和牛ステーキを予定しており、最後に自家製のデザートを出して頂けるそうです。是非、多くの会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

#### 記

日 時： 2019 年 4 月 13 日（土） 18 時 30 分より 21 時 00 分まで

会 場： イタリアンダイニング ザ サウス

<https://south.owst.jp/>

TEL 045-242-9909

会 費： 10,000 円

参加申込方法 情報誌 53 号に同封の申込用葉書：3 月 15 日（金）・必着

アクセス：JR 根岸線 桜木町駅 徒歩 3 分

横浜市営地下鉄 桜木町駅 徒歩 3 分 野毛ちかみち南 1 番出口を出てすぐ右手

京急本線 日ノ出町駅 徒歩 6 分 みなとみらい線 馬車道駅 徒歩 7 分



図及び写真はホームページよりの転載

世話役 橋本廣信

携帯：090-7234-9056



《2018 秋の FAR 会報告》

「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」  
平成最後の FAR 会秋の旅行

代表幹事 梁川 功



第 46 回秋季学術大会は、2018 年 10 月 4 日～6 日の会期で、千田浩一大会長・坂本 博 実行委員長のもと「震災から 7 年、復興と放射線技術学」をテーマに仙台市で開催されました。これに合わせ、恒例の FAR 会秋の旅行は、「日本三景松島と震災復興視察の旅」と題して、観光と震災復興状況の視察を兼ねる企画とし、19 名（当初申込み 20 名：有馬宏寧氏急用のため欠席）の皆様に参加していただきました。

昨年の「広島・宮島への旅」では、台風の接近のため降りしきる雨の中の旅行となりましたが、宮島の帰り道、山先生から「来年の仙台は晴れにしてください」と言われ、えっ！こればかりはと思ったものでした。今年、平成 30 年は台風の多い年となり、学会の直前の 9 月 30 日には台風 24 号が上陸、縦断していきました。学会開催には特に影響はなく胸を撫で下ろしました。しかし、今度は FAR 会旅行の 10 月 6 日に台風 25 号が日本海側を通過しました。これも宮城県では少し風が強かったものの心配した悪天候にはならず、予定通りの行程で旅行ができました。きっと参加された皆様の日頃の行いが良かったせいでしょう。

6 日、FAR 会世話人会議終了後、バスで学会場を出発し、最初の復興の視察として仙台空港付近の閑上（ゆりあげ）地区を訪れました。途中、復興のための工事現場や仮設住宅からの移転先の災害公営住宅（戸建、集合）を車中から見ていただきました。次に震災遺構として公開された荒浜小学校をボランティアの説明員さんに案内され、津波の脅威や後世に残すべき教訓を教えてくださいました。

その後、塩釜港から島めぐり遊覧船で、震災の当時の話を聞きながら松島に到着。夕暮れの松島では瑞巖寺を拝観しました。8 年前に FAR 会の旅行で松島を訪れたことのある皆様は、かつての参道のうっそうとした杉並木が、津波による塩害で今はスカスカ、以前の 3 割程度しか残っていないことを知らされ、大きな驚きでした。

宿泊ホテルに着き、眺望風呂で汗を流し、海の幸を味わいながらの懇親会。そこで今回の旅行にご参加いただきました皆様にサプライズプレゼント。東松島生まれのソックスモンキー、**おのくん**の里親になっていただきました。**おのくん**は宮城県東松島市「小野駅前応急仮設住宅」の人々が東松島の復興を願って生まれたキャラクターです。これまでのゆったりとした暮らしから一変、被災し先の見えない状況の中で、様々な困難に向かいながら「めんどくしえ」とぼやきつつ、日々前向きに、新しい未来を自分たちの手で築いていこう、という思いを込め、小野のおかあさんたちが、一つ一つ手縫いして作成しています。

翌日、松島ハーフマラソンが開催されるため、早朝に石巻に向けて出発しました。石巻では語り部さんにバスに同行していただき、被災の大きかった旧市街地を巡り、被災の様子、復興の状況など説明を受けました。その中で被災した住民の方々の現在を知ることができました。仮設住宅の移転先である復興集団住宅に



震災遺構・荒浜小学校。津波で消失した集落のジオラマ



里親になっていただいた **おのくん** たち

移っても、住民同士の付き合いが無く、コミュニケーションも上手く取れない方が多く、孤独になっているそうです。「ああ～復興はまだなんだ」と強く感じました。

次の女川町では、人が気軽に訪れ、集い、海を見ながら語り合う場、にぎわえる町をめざした女川の復興のシンボル、シーパルピア女川を訪ねました。女川でのエピソードの一つ。少し早めの昼食に美味しい海鮮丼を用意しました。急きょ参加できなくなった有馬宏寧先生から「申し訳ない。皆さんのために使ってくれ」と3万円のご祝儀を預かりました。そこで私は、有馬さんのご意向と予算の余裕から、グレードアップした海鮮丼を皆様に振る舞い、そのおいしさに大いに満足していただけて良かったなあと思っておりました。旅行の取りまとめに会計報告した際、宮高局長さんから「ご祝儀は別会計となっているため旅行の収入には入れないでください」と言われました。えっ！それって赤字ということですか？

結局、会から補てんしていただき、会計報告としました。申し訳ございませんでした。

最後に今回の旅行は松島のみならず、被災地の復興視察も行程に入れたため、ハードスケジュールになってしまいました。ご参加いただきました皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。おのくんの里親となっただきましたので、是非また宮城県に来ていただき、復興状況を見ていただければ幸いです。



早朝、ホテル前にて記念撮影（松島）



島めぐり遊覧船にて（松島）



シーパルピア女川にて（女川町）

## 《新入会者紹介》

鈴木昇一（愛知県愛知郡）2018年12月7日付け入会

（近況・趣味は入会申込書記載の通り掲載）



### 「近況」

2017年3月をもって定年退職し、現在はパートで大学・専門学校で、週1回程度その他をしています。まだ過去を引きずっています。

### 「趣味」

仕事が趣味でしたので、その他の趣味はほとんどありません。現在、趣味を探しています。



新入会

## 《会員動向》

会員数（2018 年 12 月 7 日現在）：92 名

- ・新入会者：1 名 鈴木昇一（愛知県愛知郡）2018 年 12 月 7 日付け入会
- ・自己退会者：1 名 野原弘基（京都府）2018 年 10 月 31 日付け

## 《会からのお知らせ》

### 2018 年度第 2 回世話人会議報告

2018 年 10 月 6 日 仙台国際センター会議棟小会議室 5 にて開催した。川上会長を含め世話人 18 名が出席し、以下の議題について討議・審議を行った。

#### 1. 会務報告

1) 会員数（2018 年 8 月末現在）：92 名（内、名誉会員：8 名）

2018 年 4 月以降の・新入会員：ナシ

- ・自己退会者：1 名 金山敬典（徳島県）2018 年 6 月 27 日付け
- ・死亡退会者：1 名 厚東正之（京都府）2018 年 5 月 4 日逝去
- ・会費未納による退会者：なし

2) 2018 年度第 1 回運営委員会（メール会議）報告

- ・日時：2018 年 1 月 13 日（土） ・議題：規約の一部改訂について
- ・委員各位にメールを発信し、規約第 4 条の一部改訂について意見集約を行い、一部改訂（案）を第 2 回世話人会議に提案する事とした。

3) 事務局報告

- (1) 資料を基に、業務報告並びに月別収支計算書を報告した。
- (2) 情報誌第 52 号の印刷・綴じ・発送作業を 2018 年 9 月 12 日に行い、HP を更新した。
- (3) 9 月 30 日現在会費未納者（5 名）に対し、情報誌第 53 号発送時に振替用紙を同封、再度の会費納入を要請した。

4) 名誉会員推戴の件

2019 年 1 月 1 日で下記の会員は規約第 4 条の定めにより名誉会員の資格を有する事とする。  
従って、2019 年 1 月 1 日付けで本会名誉会員に推戴し、各位に推戴状を贈る事とする。

#### 記

- ・丸山静雄（長野県安曇野市） ・神田幸助（埼玉県所沢市） ・木内繁夫（宮城県仙台市）
- ・雄川恭行（滋賀県大津市） ・鶴田重彦（埼玉県久喜市） ・齋藤一彦（静岡県浜松市）

（誕生日順記載）

#### 2. 規約第 4 条「会員」の一部改定の提案

現行の規約第 4 条の一部改訂を、運営委員会の審議を踏まえて、下記の通り改訂する事を提案し、全員一致で規約第 4 条の一部改訂を承認し、即日施行する事とした。

#### 第 4 条（会員）

この会の会員は、会の目的ならびに規約に賛同し、年会費を納めた次の者とする。

##### 「正会員」

- (1) JSRT の会員あるいは元会員
- (2) JSRT の事務局職員あるいは元事務局職員
- (3) その他、本会会員の推薦により世話人会議で認められた者

##### 「名誉会員」

会員であって、5 年以上在籍で米寿（数え年 88 歳）を過ぎた者で、終身とする。

#### 3. 2019 年度事業計画（案）・収支予算（案）の策定について

事業計画（案）・収支予算（案）ともに例年通りとし、その策定を正副会長に一任する事とした。



#### 4. 情報誌関係

情報誌第 53 号を下記の内容で 2019 年 1 月 15 日発行の予定である旨、資料を基に報告した。

- ・巻頭言：執筆者 速水昭雄
- ・「2019 FAR 会懇親の夕べ」のご案内 ・第 75 回総会学術大会へのお誘い
- ・JSRT 情報 ・寄稿(「古墳巡り回想録」－その 2－)等

#### 5. 懇親活動

##### 1) 「2018 FAR 会懇親の夕べ」会計報告

江島光弘 代表幹事より会計報告を行い、報告通り承認された。

- ・場 所：BEER NEXT ダイニングレストラン 横浜赤レンガ倉庫店 ・会費：10,000 円
- ・参加者：29 名(会員：21 名、会員家族：1 名、JSRT 事務局員：3 名、JSRT 役員：4 名)

##### 2) 第 75 回総会学術大会時の「2019 FAR 会懇親の夕べ」の企画の承認

(第 75 回総会学術大会 会期：2019 年 4 月 11 日～4 月 14 日、パシフィコ横浜会議センター、  
大会長：石田隆行)

橋本廣信代表幹事より下記の企画を提案し、提案通り承認された。

- ・代表幹事：橋本廣信
- ・開 催：2019 年 4 月 13 日(土) 18 時 30 分～21 時
- ・場 所：イタリアンダイニング ザ サウス (<https://south.owst.jp/>)  
横浜市中区花咲町 2-65-6 [TEL:045-242-9909](tel:045-242-9909)
- ・参加申込：情報誌第 53 号同封申込用葉書
- ・申込み締め切り：2019 年 3 月 15 日(金) 必着

##### 3) 第 47 回秋季学術大会時の「2019 ○○を巡る旅」企画案について

(第 47 回秋季学術大会 会期：2019 年 10 月 17 日～19 日、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)、  
大会長：福西康修)

小水 満代表幹事より下記の企画案のあらましを説明し、詳細案を 2019 年度第 1 回世話人会議に  
提案するとの報告をした。

- ・開催日時：2019 年 10 月 19 日(土)、20 日(日) 一泊二日(確定)
- ・場 所(予定)：滋賀県大津市琵琶湖遊覧船(ミシガンクルーズ)及び比叡山延暦寺(世界遺産)等
- ・宿泊地(予定)：ホテルピアザびわ湖

##### 4) 「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」最終確認

梁川 功代表幹事より、下記内容で予定通り開催するとの報告を行った。

- ・代表幹事：梁川 功
- ・日 時：2018 年 10 月 6 日(土)、7 日(日)(一泊二日)
- ・宿泊地：松島センチュリーホテル(懇親会場)
- ・参加費：30,000 円 ・参加人数：19 名(男性：16 名、女性：3 名)

##### 5) 懇親活動時の写真 CD に関して

名誉会長並びに顧問の各位に懇親活動時の写真 CD をお送りしてはとの提案が有り、今後は  
配布する事とした。

#### 6. その他

##### 1) 会議関係

###### ① 2018 年度第 2 回運営委員会と総務委員会との合同委員会

日時：2019 年 1 月(予定) 場所：JSRT 事務局(予定)

###### ② 世話人会議関係

- ・2019 年度第 1 回世話人会議(第 75 回総会学術大会時)  
日時：2019 年 4 月 13 日(土)(確定)、 場所：パシフィコ横浜会議センター(予定)
- ・2019 年度第 2 回世話人会議(第 47 回秋季学術大会時)

日時：2019年10月19日(土) (確定)、 場所：グランキューブ大阪 (予定)

## 《会からのお願い》

住所・メールアドレス等のご変更時には、FAR 会事務局までご連絡をお願い致します。

(連絡先メールアドレス：JSRT 宮高 睦事務局長 [miyataka@jsrt.or.jp](mailto:miyataka@jsrt.or.jp))

## 《秋季学術大会・実行委員会報告》

### 第 46 回日本放射線技術学会秋季学術大会 (仙台) 報告

実行委員長 坂本 博

2018 年 10 月 4 日から 6 日の 3 日間、杜の都仙台的仙台国際センターにて第 46 回秋季学術大会が開催されました。テーマは「震災から 7 年復興と放射線技術学」。大会長は東北大学災害科学国際研究所、同学大学院医学系研究科放射線検査学分野教授の千田浩一先生。実行委員長は私、坂本 博が務めました。実行委員は東北大学大学院、病院所属の会員を中心に東北支部の役員で構成しています。今大会の大きな特徴は、コンベンション会社に頼るのではなく、実行委員による手作りの大会運営を行ったことです。ポスター・看板原案作成(ポスター写真は江口支部監事の撮影したもの)、演題登録、会場配置、物産販売交渉、図面作成、懇親会準備に至るまで、その詳細を実行委員が担いました。さらに、大会当日の会場係には仙台市内に勤める東北大学出身の会員と東北大学保健学科、大学院の学生達に実行委員として働いてもらいました。東北支部役員の実行委員、東北大学病院診療技術部放射線部門所属の職員、仙台市内医療機関の会員、東北大学医学部保健学科職員、東北大学医学部保健学科からは 36 名の学生さんが参加し合計で 100 名を超えるスタッフで運営を務めました。学生は半数以上が本会の会員であり会員目線のおもてなしができたのではないかと自負しております。また、新たな試みとして救護室を会場内に設け、救護担当者には東北大学病院の放射線部看護師長が実行委員として協力いただき、放射線看護学会との学術協定を結んだ記念大会に花を添えるコラボレーションができたと考えています。さて、肝心の学術企画は、まさに A11 東北となりました。特別講演として東北大学総長の 大野英男先生、副学長の 青木孝文先生、放射線部長の 神宮啓一先生の講演、さらに他学会、多職種コラボレーション企画あり、震災復興特別講演に伊達家十八代当主伊達奏宗氏の講演。情報交換会での東北大応援団、すずめ踊り、牛タンカー、災害研展示、地震体験車、盲導犬体験など、準備した多くの企画で好評を得ることができました。また、学生セッションや口述発表者のポスター展示など独自企画も演者から賛同を得られ励みになりました。さらに、本学会の専門部会も大会テーマに合わせた災害医療に関する企画を組み、一体感のある大会運営ができたと感じております。結果として 1700 名以上の参加、57 社 66 小間の企業展示をいただき成功裏に終わられたこと、実行委員は勿論、アドバイスをいただいた大会開催委員会、東北支部の 梁川監事、江口監事はじめ、多くの関係の皆様感謝の気持ちが溢れてきます。最後に本大会を実行委員として経験した東北大の学生達が将来、本会の中心たる研究者となることを期待し、第 46 回秋季学術大会の報告とさせていただきます。



情報交換会での東北大学応援団のエール



《JSRT 情報》

『第 75 回総会学術大会』大会テーマ：革新的な放射線医学を ―患者に寄り添って―

Innovative Radiology close to the Patients

大会長：石田隆行（大阪大学大学院）

会 期：2019 年 4 月 11 日（木）～14 日（日）

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

『第 47 回秋季学術大会』大会テーマ：Let' s lead smart medical care through our imagination and creativity

― 未来へ ―

大会長：福西康修（彩都友誼会病院）

会 期：2019 年 10 月 17 日（木）～19 日（土）

会 場：グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

《原稿・作品募集》

【第 54 号特集テーマに対する原稿募集】（5 月 15 日発行予定）

■□■□■□「私がハマっているもの」□■□■□■

第 52 号募集と同様に「私がハマっているもの」とさせていただきます。

記

原稿内容：副題（自由にお付け下さい）

原稿文字数：800 字～1200 字（400 字原稿用紙 3 枚以内）

写 真：ご自身の写真（半身）文字数に含みません。

内容に関する写真及び図表は、1 枚につき原稿文字数から 100 文字を減じて下さい。

写真・図表は、デジタルデータが希望ですが、(JPG、PDF、EXL 等) アナログデータも可。

原稿形式：ワード、一太郎、TEX 等（ワープロ、手書きも可）

提出期限：2019 年 4 月 15 日必着でお願い致します。

また、第 47 号より募集している「私のふらり旅」のテーマも受け付けております。

送 付 先：森 克彦 〒350-0064 川越市末広町 1-11-22 宛

E-mail：mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp mokamokawh@gmail.com

《寄 稿》

「古墳巡り回想録」 ―その 2―

川越市 森 克彦

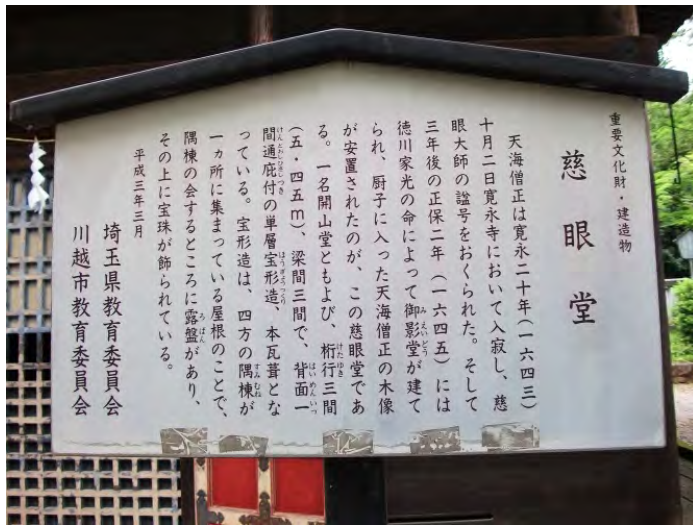


「慈眼堂古墳」＊国指定重要文化財 建造物「慈眼堂 付木造厨子」

慈眼堂古墳があるのは、喜多院本堂「慈恵堂」に向かって左側、小高い丘がありその上に「慈眼堂」が建っています。その丘が慈眼堂古墳です。慈眼堂は、天海を祀る国指定重要文化財のお堂です。7 世紀初頭につくられた古墳を利用してこの慈眼堂と喜多院歴代住職墓所が建てられています。なお、慈眼堂が建てられている案内板には、古墳については、一言も触れていません。

喜多院と慈眼堂古墳：喜多院創建より遡ること 200 年前に作られた慈眼堂古墳。その形状は前方後円墳ですが、その原型をはっきりと留めてはいません。喜多院の歴史 1000 年の中で徐々に変形をしていったと考えられますが、逆に言えば喜多院内にあったからこそ、隆起した丘がしっかり認識出来るほど形が残っていると言えるのではないのでしょうか。

筆者は、慈眼堂（高札及び喜多院の案内板等に古墳の記載が無いために）が建立されている高台が古墳であることは知りませんでしたし、改めて観察すると古墳であるとの確証らしい気持ちが沸き上がってきました。



慈眼堂の案内板



慈眼堂への階段



慈眼堂（後ろが歴代住職の墓所）



慈眼堂古墳を下から見た展望（空堀側）

### 「日枝神社古墳」

喜多院山門前にある日枝神社の境内に墳丘の一部が残されています。古墳名は「日枝神社古墳」（別名 多宝塔古墳、山門前古墳）といいます。墳丘に自筆書きの案内板が建てられているくらいで、古墳として認識している人は少ないと考えます。日枝神社古墳の元々の形状は、前方後円墳でしたが、大正13年の県道工事で古墳のほとんどが消滅してしまい、現在は前方部分が残るのみとなっています。

今日では、ただの土の盛り上がりの様な光景ですが、歴史がある盛り土であり、古墳としては、最古参であります。近代化により建物を乗せられ、削られ、壊され、今では前方後円墳とは判断できない形状となっています。日枝神社古墳の波乱万丈の歴史を垣間見ることができます。

現在、喜多院境内には朱塗りの多宝塔が建っていますが、この多宝塔、元々は喜多院山門前にある「日枝神社」と「白山神社」の間にあったこの「日枝神社古墳」の上に建てられていたもので、明治45年の道路新設のために移設されました。なお、仙波日枝神社の主祭神は、大山咋神（おおやまくいのかみ）であり、喜多院の鎮守です。また、東京都港区にある赤坂日枝神社の本社、国指定の重要文化財にもなっている神社です。





日枝神社本殿付宮殿の案内板



仙波日枝神社古墳看板



日枝神社古墳（写真右側が喜多院山門）



日枝神社古墳（県道側からの景観）

## 【コース以外の古墳巡り】

### 「岸町横穴古墳群」

国道 16 号が新宿町でほぼ直角にカーブしている稍、奥に城南中学校の南東方向の斜面一帯が横穴墓群になっています。この写真の左上（フェンス奥）が中学校のグラウンドです。現在は残念ながら穴は見られませんが、高圧電線の鉄塔の建設の時などに石室が発見され、人骨などが出土しています。年代は 7 世紀とされています。



フェンスが城南中学のグラウンド

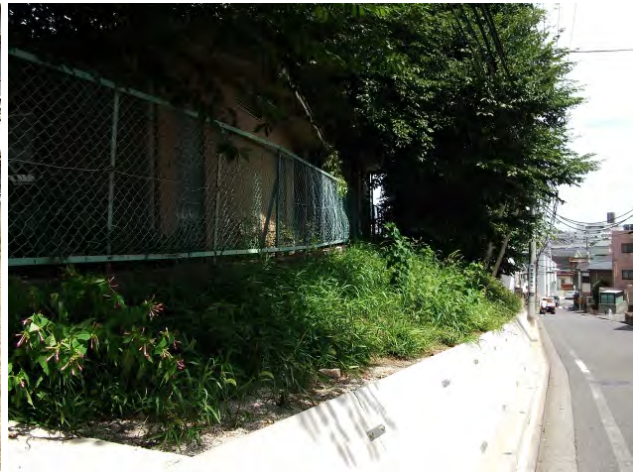


グラウンドの先はマンション





城南中学校グラウンド下の横穴古墳群



城南中学校校門下の登り道

### 「牛塚古墳」＊川越市指定史跡

牛塚古墳は、入間川流域で最大の前方後円墳です。この一帯には、30 基程あった的場古墳群の一つでも一番大きさがあります。なお、的場古墳群は牛塚古墳のみ現存しています。

牛塚古墳の形状は前方後円墳ですが、かなり変形していますので、実際古墳を見ても、前後が判明しませんが、結論は、北側が前方で、南側が後円部になります。多くの古墳では、神社あるいは祠を設けて保存しているようです。

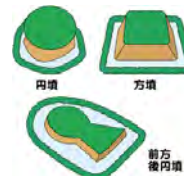
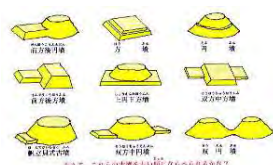


川越市指定史跡の表示塔



牛塚の頭頂部に上る階段

牛塚古墳の頭頂部は雑草が少し生えていました。後円部より、横穴式石室（古墳のサイドに入口があり、古墳中央内部に埋葬空間があるタイプ）は、大変珍しいことであり、当初造営された石室の上に、さらに石室がある重葬形式の埋葬が行われていることが判明しております。出土品は、盗掘をされたにも関わらず多くの遺物が出てきております。中でも「金銅製指輪 x2 個」は埼玉県内でも非常に貴重な物といえます。







牛塚古墳の周りは住宅街



左上に見える白い建物は、大学のキャンパス

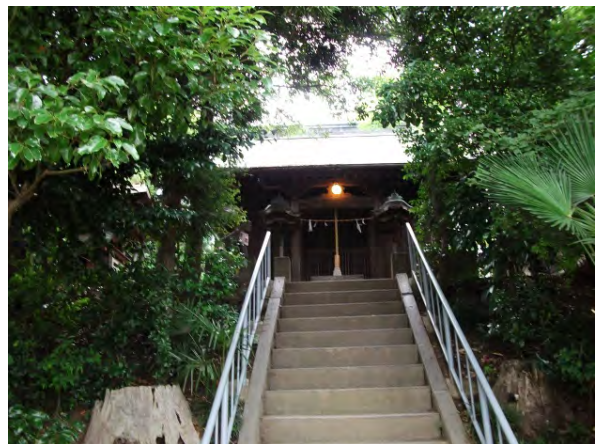
### 「古谷神社古墳」

古谷神社古墳は、前方後円墳で、頭頂部に古谷神社が建てられています。

場所は、伊佐沼の東南に位置する微高地ですが古墳は、前方部が低く短いのが特徴で帆立貝形の前方向後円墳です。円墳部の墳頂は、神社建造の際にけずられ少し低くなっていて、平坦部の直径は盛土のため当初より広がっています。なお、神社の説明板によると、未調査のため古墳かどうかは断定できないが、近郊の熊野神社古墳から埴輪、直刀、土器（6世紀末～7世紀初め）が出土していることから古谷神社古墳と呼ばれているようです。



古谷神社の大鳥居



社殿への階段



西側から見た古墳



東から見た古墳



## 「山王塚古墳」＊川越市指定 史跡

山王塚古墳は、方墳の上に円墳を上乗せした形をした「上円下方墳」という古墳です。上円下方墳としては東日本で最大の古墳になります。山王塚古墳の周辺には 18 基もの古墳が点在し、それらをまとめて「南大塚古墳群」と言い、その中でも最大の古墳です。古墳自体の規模は木々や草に覆われ、全体像を確認することが難しいですが、ベースとなる方形部（下段）の 1 部の幅は約 63m、高さは 1m。円形部（上段）は直径 47m、全高は 4.5m あります。正面から見るとベースの方形部が残されていることがはっきり分かります。古墳の裏側に回ると、木々の間に幅約 5m の周溝跡を見ることが出来ます。当時は古墳の周囲に巡っていたと考えられています。また、墳頂にも登ることが可能！墳頂から下を覗き込むとそれなりの高さを感じます。そんな墳頂部には盗堀の痕跡が発見されていますが、主体部の調査は実施されていないようです。山王塚古墳の墳頂へ登ると、山王社の小さな祠と巨木の姿を見ることができます。



山王社石鳥居



階段はなく坂道にて墳頂へ



墳頂部の祠



現在は赤い鳥居がありました





## 「舟塚古墳」＊川越市指定史跡

川越市の北東に位置し、入間川左岸の微高地に舟塚古墳があります。

6世紀後半に築かれたとされ、元々全長 50m 程あった前方後円墳です。現在は、墳丘の東側の一部が残るのみで、雑木がこんもりと茂る小山になっています。

明治（1887 年）に植木学校並びに村役場建設の為に墳丘の大部分が削られ、その際に箱式石棺と遺物が出土しましたが、住民によって再び埋められました。

昭和 45 年に残りの墳丘が削られた際に、明治に埋めた遺物、直刀片、鉄環、鉄製杏葉（馬具）などが再度出土しました。古墳の東側には、明治に建設された植木小学校の石柱と石碑が残っています。

東側に説明板があり、墳丘の端が見えます。なお、この場所に建設された植木小学校並びに村役場が昭和 12 年に火災となり、他所へ移転した後に円乗寺が建てられたが、寺も今では墓地を残すのみでのようです。



植木学校の石碑



舟塚古墳説明版



舟塚墳丘東側の一部



舟塚古墳下の墓地





「菅原神社東古墳」＊埼玉県選定 重要遺跡： 南大塚古墳群

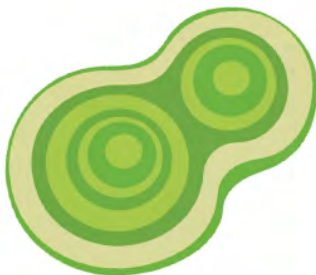
関越自動車道「川越 IC」のほど近く、国道 16 号線沿いに学問の神さま天神（菅原道真公）をまつる「南大塚菅原神社」があります。すぐお隣には江戸時代中期に菅原神社の別当寺（神社の管理をする寺）だった西福寺もあります。あまり知られていませんが社殿は古墳の上に乗っかっています（解説板はなし）。この古墳は「菅原神社東古墳」といい、埼玉県選定重要遺跡「南大塚古墳群」の 1 つです。直径 20m ほどの円墳です。社殿裏側から見ると盛り上がりのある円墳が確認できます。



写真は、菅原神社石碑と社殿下部分をコンクリートで固められ一見古墳とは言いがたい景観ですが、裏側には円墳の残り半分を確認することができます。

「八雲神社古墳」

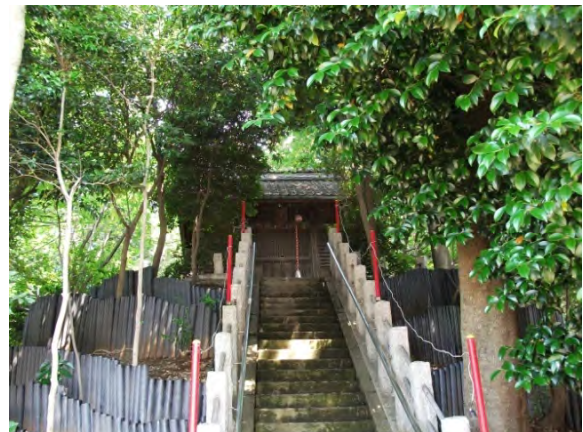
国道 16 号新宿三丁目交差点を所沢方面へ南進し、久保川（窪川）を越えて数十メートル左側に有ります。県指定無形文化財のお囃子が伝わっている旨の説明板があるが、古墳であることには触れられていない。この八雲神社古墳は、墳頂部を削って社殿を建てた神社古墳の典型ではなく、元々ある墳丘の上に石垣を築いているようです。







八雲神社大鳥居



墳丘が崩れないように杭が打たれている



社殿と円墳及び石垣

### 「北久保古墳」

田園風景が広がる道端にうっすら土の盛り上がりのある北久保古墳があります。高さは1mあるかないかくらいの古墳で、もともとは円墳。ここ一帯に点在した「下小坂古墳群」の1つです。また、下小坂古墳群の1～4号墳は、破壊され既に存在はしていませんが、発掘調査が行われ、直刀片、ガラス小玉、円筒埴輪、白銅製多珠文鏡などが出土しています。これら出土品は、「下小坂古墳群出土品」として川越市の有形文化財（考古資料）の指定をうけています。川越市内のこの群の他の古墳はほとんど削平されています。近くの「東洋ゴム」の工場に玉類、埴輪、鏡などの出土物が展示されているそうです。





市道から見ると少し盛り上がって小山の上に祠が祀ってあるのが確認できます。



東側は、一般公園となっていて近郊の生活と共存しているのが見て取れます。

### 「たぬき山古墳」

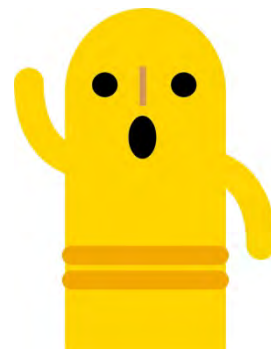
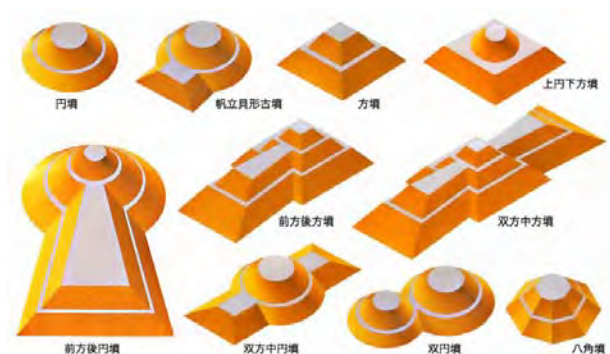
的場たぬき山公園は、「タヌキの置物があり、住宅地の真ん中にある公園」です。なぜ、この公園にタヌキの置物があるのかは定かではありません。公園及び古墳に関する案内板などは一切なく、知る人も少ないかもしれませんが、円墳の古墳です。古墳を保存するためにこの場所を公園にしたのかと思われます。多くの古墳が破壊されていくなか、ほぼ完存な状態に保たれています。



たぬき山古墳の墳頂部にたぬきの置物



古墳を西側から見たところ







たぬき山古墳を北側から見上げたところ

次回以降は、川越市街の数カ所のほか隣接する市町に点在する古墳を紹介しますので、どうぞご期待ください。市街地に隣接する市町の古墳までは、自宅から片道 10km 程ありますし古墳表示のない場所も多くウォーキングでの探索は肉体的にも精神的にも労力が必要と実感しています。

~~~~~

《親睦会報告》

「平成最後の年忘れ紅葉の宴」

大阪市 草山泰子

2018 年 12 月 8 日京都の聖護院御殿荘で 1 年 8 ヶ月ぶりに 15 名の方のご参加で、平成最後の年忘れ紅葉の宴と名付けた会を催しました。お集りいただいたのは、関西の方が多数で、春・秋の FAR 会の親睦会には勤務の都合や諸般の都合でご参加頂けない方々もおられました。事務局の井口様以外はもちろん 60 歳を超えた会員の方がたです。

皆様の自己紹介で話題になりましたエピソードをご紹介します。一番盛り上がったのが誰もが向き合わねばならない介護の問題です。ご家族の介護に携われた方々はそれぞれ内容が違っているので、色々なご意見の討論が真剣にされ、宴席である事を忘れて時間が過ぎていきました。次に学会と事務局の関係についてです。事務局の業務活動なくして、学会の法人活動は出来ません。昭和の時代事務局は縁の下で支えてくれているが、局員の待遇は会員には関係無いと考えられていました。しかしその考えにメスを入れ総会で発言され局員の待遇改善に貢献された方々も今回おられて、その時の話題でも皆さん活発にお話されていました。皆さん清水さんの学会貢献度の大きさに改めて驚き、参加した会員の事全て記憶しておられることに感謝あるのみ。今後の事務局員も清水さんに近づきましょうと笑い話で盛り上がりました。もう一点今最も話題性のある免疫医療の話。放射線治療に携わった皆さんなので、放射線治療の今後について、熱のこもった討論でした。このような宴席でしたので、少しアルコールの消費量が少なくご参加頂いた皆さんには、ご満足頂けなかったかと心配いたしております。

来年の秋の学会は大阪です。皆さんぜひ懇親旅行にご参加下さいとお願いして、3 時間におよびました会を終わりといたしました。





「平成最後の年忘れ紅葉の宴」
2018年12月8日(土) 京都・聖護院御殿荘

《編集の小窓》

明けましておめでとうございます。皆様には良い新年をお迎えになりましたでしょうか。2019年新年号（情報誌53号）をお届けいたします。さて、今回は、森 克彦氏には、《古墳巡り回想録》を前号（-その1-）に引き続き-その2-を掲載頂きました。この2回分は、埼玉県や県章と古墳の種類や歴史的背景及びスマホを活用した氏の健康法に基づくウォーキングに対する思いが余すことなく掲載された内容の記事を投稿して頂き有難うございました。特に、氏の-その1-の投稿は、古墳の形及び歴史について、事細かく調べた内容と私自身も歴史関係が好きなのに、私が住んでいる所にも数カ所の古墳はありますが川越市やその周辺市にこれだけの数の古墳があったことに驚きを感じました。この2回掲載頂いた古墳群の画像・コメントを観ると現地に居るような錯覚におちいる様な盛り込んだ内容が含まれていたのので感銘を受けました。

なお、氏の様に健康目的でウォーキングが8年と長きにわたり続けていられるのは、史跡巡り等を一緒に実施をすることで得られたのではないかと感心させられました。

私も昨年秋から暇を見つけては、2時間ほどかけてウォーキングを兼ねて市内の史跡の散策を始めました。

皆様も体を動かし健康のためにウォーキングを始めては如何でしょうか。

会員の皆様、第75回総会学術大会における「2019 FAR会懇親の夕べ」への多数のご参加をお待ち申し上げます。

“ 横浜でお会いしましょう!! ”

橋本廣信、記

FAR 情報誌 No.53（非売品）

発行日 2019年1月15日

発行者 川上壽昭

編集委員会 森 克彦（委員長）

石井 勉 江島光弘

橋本廣信

山田和美（顧問）

森 連絡先 Tel&Fax

049-225-2619

Email:mokamokawh@gmail.com